



もりの

		物語文 2			説明文 1			物語文 1			タイトル	
タイムテスト(1)	9	五月の道しるべ(3)	◆漢和辞典の使い方	41	37	37	40	8	5	8	◆ねらい ◆ことば・コトバ・言葉	ページ
	8	五月の道しるべ(2)	◆国語辞典の使い方	33	33	36	3	9	12	◆漢字のでき方	◆あらすじをとらえる	学習の記録 月/日 ページ
	7	五月の道しるべ(1)	▲場面をとらえる	29	29	32	1	13	16	◆漢字の部首	◆漢字の画数	宿題
	6	やきものはなし(3)	◆漢字の画数	25	25	28	2	21	24	◆漢字の筆順	◆漢字の部首	チェック欄
	5	やきものはなし(2)	◆漢字の筆順	21	21	24	3	17	20	▲こそあどことばとつな ぎことば	◆漢字の部首	チェック ノート
	4	やきものはなし(1)	▲こそあどことばとつな ぎことば	17	17	20	4	13	16	◆漢字の部首	◆漢字の画数	
	3	おじいちゃんのゴーストフレンド(3)	◆漢字の部首	13	13	16	5	9	12	◆漢字の部首	◆漢字の画数	
	2	おじいちゃんのゴーストフレンド(2)	◆漢字のでき方	9	9	12	6	25	28	◆漢字の筆順	◆漢字の画数	
	1	おじいちゃんのゴーストフレンド(1)	▲あらすじをとらえる	5	5	8	7	29	32	◆漢字の筆順	◆漢字の画数	

			物語文 4			説明文 2			詩		物語文 3		
タイムテスト(3)	19	ふりむいた友たち(3)	◆慣用句	85	81	81	84	13	55	55	58	◆ねらい ◆ことば・コトバ・言葉	ページ
	18	ふりむいた友たち(2)	◆ことばの意味と使い方	77	77	80	4	9	12	◆漢字のでき方	◆漢字の画数	学習の記録 月/日 ページ	
	17	ふりむいた友たち(1)	▲性格をとらえる	73	73	76	5	13	16	◆漢字の部首	◆漢字の画数	宿題	
	16	キタキツネの原野をいく(3)	◆送りがな	69	69	72	6	25	28	◆漢字の筆順	◆漢字の画数	チェック欄	
	15	キタキツネの原野をいく(2)	◆かなづかい	65	65	68	7	29	32	▲こそあどことばとつな ぎことば	◆漢字の部首	チェック ノート	
	14	キタキツネの原野をいく(1)	▲事実と意見を読み分 ける	61	61	64	8	13	16	◆漢字の部首	◆漢字の画数		
	タイムテスト(2)			59	59	60	9	17	20	◆漢字の筆順	◆漢字の画数		
	13	桜の木の下で・素直な疑問符	▲詩について	55	55	58	10	25	28	◆漢字の筆順	◆漢字の画数		
	12	夏子先生とゴイサギ・ボーイズ(3)	◆文の組み立て②	51	51	54	11	29	32	▲場面をとらえる	◆漢字の部首		
11	夏子先生とゴイサギ・ボーイズ(2)	◆文の組み立て①	47	47	50	12	13	16	◆漢字の部首	◆漢字の画数			
10	夏子先生とゴイサギ・ボーイズ(1)	▲気持ちを読み取る	43	43	46	13	17	20	◆漢字の筆順	◆漢字の画数			

説明文 3

物語文 5

説明文 4

4年のまとめ	長文(2) きたたかいじゅうたち	長文(1) 昼めし	タイムテスト(5)			タイムテスト(4)			物語文 5			説明文 3		
			28 せんたくのはなし(3)	27 せんたくのはなし(2)	26 せんたくのはなし(1)	25 前奏曲は、荒れもよう(3)	24 前奏曲は、荒れもよう(2)	23 前奏曲は、荒れもよう(1)	22 スーパーワールド ザリガニ(3)	21 スーパーワールド ザリガニ(2)	20 スーパーワールド ザリガニ(1)			
			◆じゆく語の組み立て②	◆じゆく語の組み立て①	★主題・要旨をとらえる	◆対義語	◆類義語	★表現を味わう	◆同訓異字	◆同音異義語	★段落			
			121 124	117 120	113 116	111 112	107 110	103 106	99 102	95 98	91 94	87 90		
			/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

第1回

物語文1

おじいちゃんのゴーストフレンド(1)



ねらい

◆あらすじをとらえる

あらすじとは、文章全体のだいたいのすじみちのことです。

あらすじのつかみ方

(1) 登場人物

主人公を中心にして、登場人物をとらえます。

(2) 事件

主人公を中心にして、「いつ・どこで・だれが・どうした」かをとらえます。「いつ」は季節・時間を表すことば、「どこで」は場所を表すことばに注意します。

(3) 場面

時がどううつり変わったか、場所がどこに変わったか、事件がどうなったかをつかみます。

(4) 流れ

それぞれの場面の中心的事実をまとめて、おおまかな話の流れをつかみます。

以上のことに注意しながらあらすじをとらえます。



漢字を書こう。

材	訓	末	飛	席	残	英	印
木 7	言 10	木 5	飛 9	巾 10	歹 10	艹 8	卩 6
サイ	クン	マツ バツ すえ*	ヒ ト ト とばす	セキ	ザン のこる のこす	エイ	イン しるし
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
モクサイを運ぶ。	犬をクンレンする。	ごみをシマツする。	ヒコウジョウをつくる。	シュツセキをとる。	ザンキンをはらう。	エイゴを学ぶ。	ヤジルシでしめす。

回文を完成させよう

「しんぶんし」や「たけやぶやけた」のように、上から読んでも下から読んでも同じことばや文を回文というよ。絵をヒントに、1〜5の回文を完成させよう。

例

にわとりとわに
にり
に

い
お
い

い
す

る
は

か
た
べ

う
さ
う

第2回

物語文1

おじいちゃんのゴーストフレンド(2)

ことば・コトバ・言葉

漢字のでき方

漢字のでき方には、次の四つがあります。

(1) 象形文字……ものの形をかたどったもの。



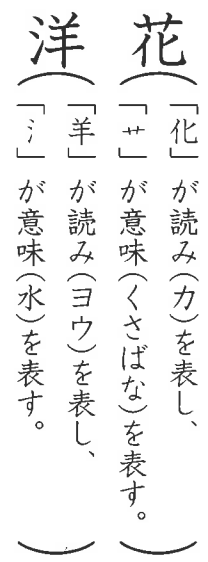
(2) 指事文字……形のないものを、点や線で表したものの。



(3) 会意文字……いくつかの文字を組み合わせて、新しい意味を表したものの。



(4) 形声文字……読みを表す部分と意味を表す部分とを組み合わせて、一つの漢字としたもの。



漢字を書こう。

刷

リ 8
する サツ

順

頁 12
ジュン

選

辵 15
えらぶ セン

料

斗 10
リョウ

井

二 4
い セイ* ショウ*

然

灃 12
ネン

標

木 15
ヒョウ

富

冫 12
とととフ* びみ*

(1) 文集をインサツする。

(2) ジュンチョウに進む。

(3) 代表をセンシュツする。

(4) 肉をリョウリする。

(5) イドをほる。

(6) シゼンが美しい。

(7) モクヒョウを決める。

(8) トミを手に入れる。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「鉄塔てつとうって四角錐しかくすいに近いだろ。ピラミッドピラミッドににてるだろ。四角錐しかくすいの真ん中には、ふしぎなチカラが集まるって知らないか？ 物がくさらないだとか、ミイラミイラがふっかつするだとか」

「ミイラ？ ふっかつ？」

ぼくは、そっと首をひねった。

「うん。ただ、気をつけなきゃいけないのは、ただの四角錐じゃだめなんだ。四つのへんが、東西南北とうしなんぺいに向いてなくっちゃだめなんだ」

そしてテッチャンは、① すぎるような目を、② ぼくに向けた。

「この鉄塔…：向いてんだ。ちゃんと東西南北とうしなんぺいを向いてんだよ」

テッチャンはポケットから、③ ちゃちな方位計ほういけいを取り出した。いつか④ いっしょに、ガチャポンで当てたものだ。⑤ それを前につき出して、鉄塔てつとうのまわりをぐるぐる回った。

「ほら、まちがいないよ。この塔のへんがきちんと東西南北をさしてるんだ。すごいと思わないか。この真ん中に、おじいちゃんをつれてくるのができたら、⑥ 奇跡きせきが起こるかもしれない。そんな気がするんだ」

ぼくは鉄塔を見あげた。

鉄塔は青い空を背負せおって、真っすぐ立っていた。

横にはり出した鉄わくに、鳥のかけがぼつんと見えた。まるで、かたに小鳥をのせた、こどくでやさしい巨人きょじんみいだった。

ぼくたちは坂道をころがるように、テッチャンの家に向かつて走った。

待つしかないなんて…：どこかのお医者さんがちりょう法ほうを見つけた。

てくれますように。そしてどうか、おじいさんに間に合いますように。⑦ そういのって、待つしかないなんて…：そんなのいやだ。⑧ 急いそがなきゃ。

こんな話、だれに聞かせたってまともじゃない。黒井くろいさんならなおさらだ。でも、ダメモトでやってみるしかない。たとえ、それがどんなにばかげて見えたとしても、ぼくはテッチャンにつき合あう。テッチャんに助けがほしいといわれたら、全力で助ける。友だちだから。テッチャンのお母さんは、⑨ 今日けふはもう出かけたはずだという。黒井さんがやってくる前に、⑩ おじいさんをつれ出さなきゃいけない。

おじいさんは、ベッドに横たわっていた。

ぼくたちは強引きやういんともいえるやり方で、おじいさんをベッドから引っぱり出した。

目を白黒しろくろさせて「⑪ いったい何なにごとだい」というおじいさんに、説明せつめいはしなかった。⑫ 説明せつめいなんて、できるわけがなかった。ただ、早く早くとせつつきながら、苦勞くろうしてパジャマからジャージに着がえさせ、くつ下をはかせて、ぼうしをかぶせた。

テッチャンが両手を引っぱり、ぼくがうしろからあとおしして、おじいさんを何とかげんかん先までつれていった。げた箱げたばこにつかまらせるところで、⑬ おじいさんはぼくたちの手をおしもどした。

「どこへいこうっていうんだい。おまえたちはろくに話もしないで、いったい、何をするつもりなんだい」

テッチャンが、おこったような顔でいった。

「おじいちゃんの病気をなおしたいんだ。ぼくたちといっしょに、きてほしいんだ」

おじいさんとテッチャンは、しばらくならみ合っていた。

*1 四角錐しかくすい＝四角形の底そこと四つの三角形からできる、ピラミッドのような形。

問一 線①「テッチャンは、すぎるような目を、ぼくに向けた」とありますが、このときのテッチャンの気持ちとしてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア これから言う話を、だれにも話さないでほしい。
イ 自分の言うことが正しいかどうか、教えてほしい。
ウ 何も言わないで、だまって自分の話を聞いてほしい。
エ 自分の言うことを信じて、手伝ってほしい。

問二 線②「それ」は、何を指していますか。

問三 線③「鉄塔のまわりをぐるぐる回った」のは、何のためですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 四つのへんが東西南北に向いているような鉄塔を「ぼく」といっしょにさがすため。
イ 鉄塔の四つのへんがきちんと東西南北に向いていることを「ぼく」に示すため。
ウ 鉄塔の四つのへんがどっちに向いているかを、「ぼく」に調べてもらうため。
エ 四つのへんが東西南北に向いている鉄塔のすこさを「ぼく」にわかってもらうため。

問四 線④「奇跡が起こるかもしれない」とありますが、どんなことが起きるといのですか。

問五 線⑤「急がなきゃ」とありますが、この気持ちが二人の様子に表れている部分を文中から十字で書きぬきなさい。

Table with 10 empty boxes for text input.

問六 線⑥「おじいさんをつれ出さなきゃいけない」とありますが、おじいさんをつれ出して、どうするのですか。次の□□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

Table with 4 empty boxes for text input.

問七 線⑦「説明なんて、できるわけがなかった」とありますが、それはなぜですか。

問八 □□にあてはまることばとしてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア どうとう
イ しじぶ
ウ わざわざ
エ そろそろ

ことば・コトバ・言葉

1 次の漢字は、二つの文字を組み合わせて、新しい意味を表したもの(会意文字)です。元になった二つの漢字を「」に書きなさい。

(1) 岩 ↓ と

(2) 畑 ↓ と

2 次の漢字は、読みを表す部分と意味を表す部分とを組み合わせて、一つの漢字としたもの(形声文字)です。読みを表す部分を「」に、意味を表す部分を「」に書きなさい。

(例) 花 化 化

(1) 油 油

(2) 板 板

3 次の漢字を、漢字のでき方から、四つのグループに分けなさい。

明三魚味日下鳴時

象形文字 指事文字

会意文字 形声文字

第3回

物語文1

おじいちゃんのゴーストフレンド (3)



漢字の部首

いくつかの漢字に共通する部分のことを部首といいます。部首は、その位置によって、大きく次の七種類に分けられます。

へん(漢字の左側) 打(てへん) 村(きへん)

つくり(漢字の右側) 部(おおざと) 列(りっとう)

かまえ(外から囲む) 国(くにがまえ)

かんむり(漢字の上部) 守(うかんむり)

あし(漢字の下部) 然(れんが) 思(こころ)

たれ(漢字の上から左) 店(まだれ) 原(がんだれ)

によう(漢字の左から下) 返(しんによう)



漢字を書こう。

夫	奈	伝	初	最	群	老	未
大 4	大 8	イ 6	刀 7	日 12	羊 13	夕 6	木 5
おっと	ナ	つたえ	そうめい	もっとも	むむむ	おいう	ミ
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
畑で働くノウフ。	奈良県に住む。	デンゴンバンを見る。	シヨシンにかえる。	世界サイダイの湖。	馬のムレ。	ロウジンと話す。	ミライを考える。



漢字の一部が絵になっているよ。何という漢字かな。

寺	氏	系	世
⑦	⑤	③	①
⑧	⑥	④	②
田	亜	根	胡



文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「さあさ、もうじゅうぶん元気をもらったみたいですよ。こんなところに長くいて、かぜでも引いたらともこないでしょ」

黒井さんはおじいさんの手を取った。そして、またばきばきと植木をふみたおしながら、敷地の外におじいさんをつれ出した。ぼくたちもあとにつづいた。

車いすにすわったおじいさんに、テッチャンは聞いた。

「どう。おじいちゃん、少しは病気がよくなったような気がしない？」

「ああ、そんな気がする。とてもよくなったような気がするよ」

よっしゃ、とテッチャンはうでをふりあげた。ぼくも親指を立てた。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

それが本だったのかどうかはわからない。でも、ぼくたちはしんじている。おじいさんはこのとき、生きる力を取りもどせたんだ。坂道の下りは車いすをおすというより、引っぱるといったほうが正しい。放つておいても車いすは進む。ぼくとテッチャンは、足でブレーキをかけながら、しんちょうにくだっていった。

横を歩く黒井さんに、ぼくは「A」たずねてみた。

「鉄塔で病気をなおそうなんて、もし話してたらしんじてくれましたか？」

「さあ、どうだかね。でも、いわしの頭も信心からっていうし、しんじてみたくなったかもしれないわね」

テッチャんが、声をひそめた。

「でも、黒井さんはふうさんをしんじてないんでしょ？」

「しんじるってふうさんの何を？」

テッチャんは言葉につまった。そのときだった。どこからか犬の鳴

き声が出て、白い小さなものが、車いすの前を横ぎったように見えた。

でも、だれも気づかなかったのか、何ごともないように進んでいる。ぼくは思わず、自分の目をこすった。

「ふうさんはだめ」

黒井さんが「B」いった。

「ふうさんみたいに死んだ人はだめ。昔のことばかりを大事にするのはよくないもの。あんたたちにはまだピンとこないかもしれないけど、ね、いくら年を取ったって、未来はあるのよ」

黒井さんの声はたぶん、おじいさんにはとどかない。でも、ぼくはちよっぴり聞いてほしいような気持ちもした。

「長谷川さんにはちゃんと今を生きて、目の前にあるものを見てほしいの。まぼろしなんかは気を取られてちゃ、もったいないじゃない。こんなぎょうぎの悪い子たちが、次に何をやらかすのか、見のがしてちやつまんないじゃない」

黒井さんのいうこともわかる。でも、テッチャんのお母さんがいうように、楽しい思い出の中にあるほうが幸せだって気もする。どっちなんだろう。どっちがおじいさんにとって、本当にいいことなんだろう。

考えてみたけれど、ぼくにはわからなかった。ただそのとき、黒井さんのエプロンのちようちよが、なんだかきれいに見えてきたんだ。

(安東みきえ『おじいちゃんのゴーストフレンド』)

問一 線①「それ」は、どんなことを指していますか。

問二 線②「おじいさんはこのとき、生きる力を取りもどせたんだ」とありますが、黒井さんも「ぼくたち」と同じように感じていることがわかることばがあります。そのことばを、文中から十

二字で書きぬきなさい。

問三 線③ A・B にあてはまることばとして、もっともよいものを

- 次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。
- ア ぴしゃりと イ ぐったりと
- ウ すらすらと エ おずおずと

A [] B []

問四 線④ 「ふうさんみたいに死んだ人はだめ」とありますが、

黒井さんから見ると、「ふうさん」はどんなものなのですか。文中から四字で二つさがし、それぞれ書きぬきなさい。

問五 線⑤ 「黒井さんの声はたぶん、おじいさんにはとどかない。でも、ぼくはちよっぴり聞いてほしいような気持ちもした」とあ

りますが、ここと同じように、黒井さんに対する「ぼく」の気持ち

ちが変わってきていることがわかる一文を文中からさがし、そのはじめと終わりの四字を書きぬきなさい。

問六 線⑥ 「どっちがおじいさんにとって、本当にいいことなんだろう」とありますが、(1)黒井さんと、(2)テッチャんのお母さんは、どんなことがおじいさんにとっていいことだと考えていますか。それぞれ書きなさい。

(2)	(1)

問七 この文章でえがかれている黒井さんはどんな人ですか。その説明としてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア みんなからあまり信用されていないが、実はとてもまじめで、何でもいっしょうけんめいにやる。
- イ 子どもをきらきらしてはいるが、それを表に出さず、やさしく相手をしている。
- ウ つい口うるさくしかつたりもするが、本当はみんなと楽しく付き合いたいと思っている。
- エ きびしい言い方もするが、相手のことをしんけんにかけて

ついている。

1 次の図は、□を漢字の一字として、部首にあたる部分を■でぬりつぶしてあります。それぞれの部分の名前を書きなさい。

(例) (1) □ (2) □ (3) □ (4) □ (5) □ (6) □ (7) □ (8) □

2 次の漢字の部首の名前をあとから選び、記号で答えなさい。

- (1) 庭 (2) 秋 (3) 間 (4) 遠
- (5) 点 (6) 第 (7) 都
- ア おおざと イ ふるとり ウ もんがまえ
- エ のぎへん オ たけかんむり カ まだれ
- キ れんが ク しんにょう

3 次の部首をもつ漢字を、二字ずつ書きなさい。

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)

いとへん はつがしら
 おおがい さんずい

説明文1

第4回

やきものはなし (1)



漢字を書きなさい。

種	以	約	念	梨	典	辞	氏
禾 14	人 5	系 9	心 8	木 11	ハ 8	辛 13	氏 4
シユ たね	イ	ヤク	ネン	なし	テン	ジ やめる*	シ うじ*
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
運動会のシユモク。	十歳 <small>さい</small> イカの子ども。	ホテルをヨヤクする。	キネンに木を植える。	ナシの実がなる。	コテン音楽をきく。	ジシヨで調べる。	シメイを書く。

※ 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

けんたくくんはきのう、家の近くの図書館へ、歩いて行きました。そのとちゅう、前から来た、ヘッドホンで音楽を聞きながら、けい帯電話でメールを打っているわかい男の人の自転車とぶつかりそうになりました。けんたくくんは「あぶない」と言っていたのでよけましたが、男の人はけんたくくんには気がつかなかったように、そのまま自転車を運転して通りすぎて行きました。けんたくくんは、この男の人は二つの点であぶないなあと思いました。

問い あなたは、けんたくくんが思った二つの「あぶないこと」

はどんなことだと考えますか。それぞれ理由も書きなさい。

あぶないこと①

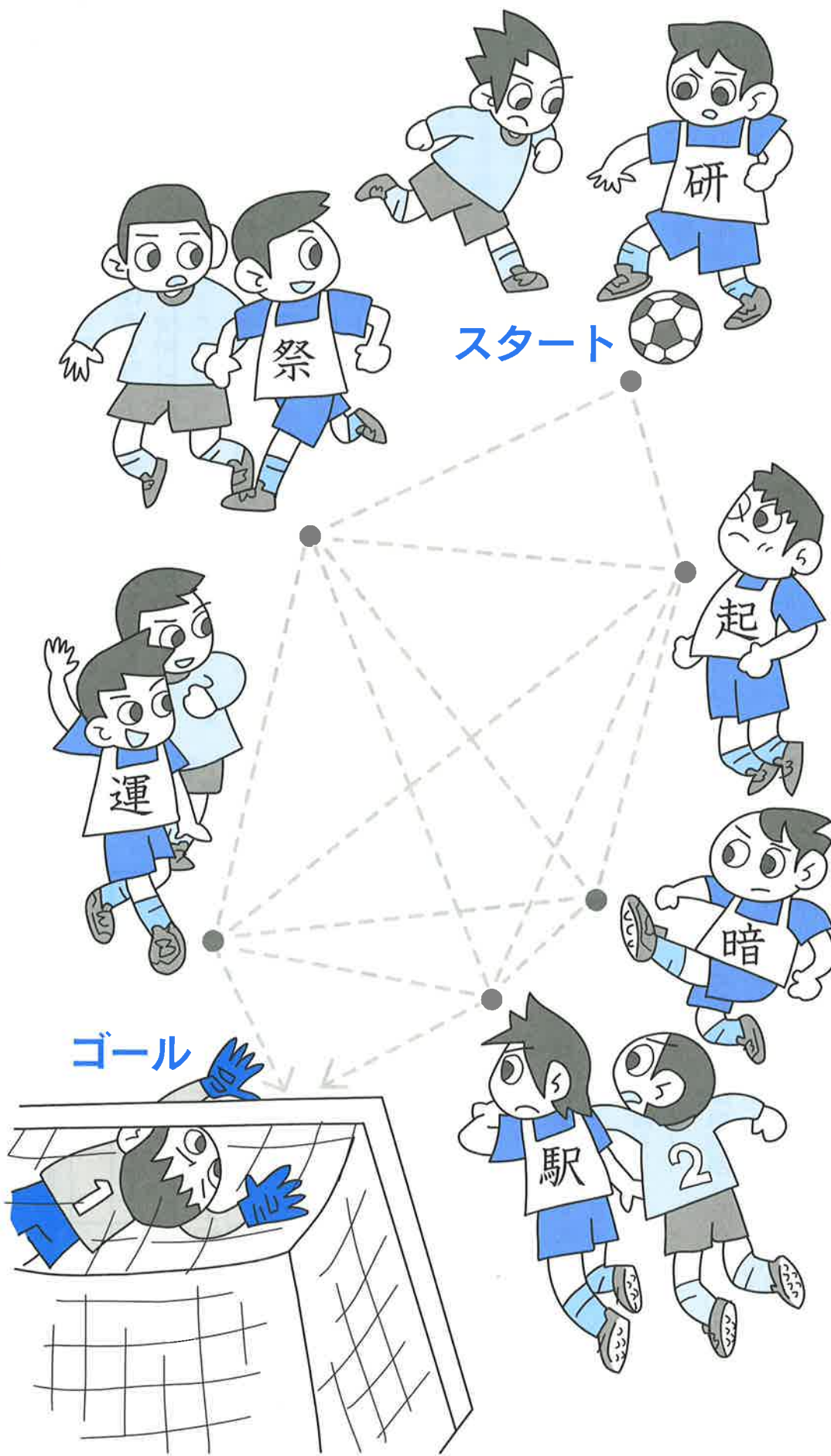
①の理由

あぶないこと②

②の理由

あざやかなパスまわし

漢字の総画数が一画ずつふえるように、点線をなぞってパスをつなごう。ボールをゴールまでもっていけるかな？



第5回

説明文1

やきものはなし (2)



ことば・コトバ・言葉

漢字の筆順

漢字を書くときの順序を漢字の筆順といいます。筆順には、次のようなきまりがあります。

- (1) 上から下へ
三……一 二 三 草……サ 昔 草
- (2) 左から右へ
川……ノ 川 湖……シ 湖
- (3) まじわる画は横画からたて画へ
十……一 十 花……一 サ 花
(例外) 田……口 田 田 王……一 王 干 王
- (4) 中から左右へ
小……丨 小 水……丨 水
外側から内側へ
国……口 国 同……丨 同
(例外) 区……一 区 齒……止 齒
- (5) 左はらいから右はらいへ
父……ハ 父 文……一 文
つらぬく画は最後
中……冂 中 子……丨 子
(例外) 里……日 甲 里 世……一 世

漢字を書こう。

埼	改	岡	茨	労	類	法	説
土 11	父 7	山 8	サ 9	カ 7	頁 18	ミ 8	言 14
さい	カイ あらためる あらたまる	おか	いばら	ロウ	ルイ たぐい	ホウ ハツ* ホツ*	セツ セイ* とく

- (1) 場所をセツメイする。
- (2) ホウホウを考える。
- (3) 植物をフンルイする。
- (4) 親にクロウをかける。
- (5) イバラのとげがささる。
- (6) フクオカ市の出身。
- (7) 規則をカイセイする。
- (8) サイタマ県に行く。

ことば・コトバ・言葉

1 筆順の正しいほうの記号を○で囲みなさい。

(1) 母 ア イ ム 母 母 母

(2) 木 ア イ 一 十 十 木

(3) 用 ア 月 月 用 用 用

(4) 円 ア 月 月 円 円 円

(5) 楽 ア 月 月 月 月 月

(6) 月 ア 月 月 月 月 月

(7) 右 ア ノ ナ ナ ナ ナ ナ

(8) 左 ア ノ ナ ナ ナ ナ ナ

2 ↓をつけた画は、何画目に書きますか。それぞれ答えなさい。

(1) 女 (2) 平 (3) 耳

(4) 化 (5) 何 (6) 勉

(7) 屋 (8) 門 (9) 馬

3 筆順のまちがっているものを三つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 万 万 万

イ 角 角 角 角

ウ 医 医 医 医

エ 飛 飛 飛 飛 飛

オ 乗 乗 乗 乗 乗

カ 書 書 書 書 書

キ 都 都 都 都 都

第6回

説明文1

やきものはなし (3)



ことば・コトバ・言葉

漢字の画数

漢字を組み立てている一つの点や線を画といえます。

一つの漢字を何画で書くか、その画数を総画数といえます。

(1) 画数をまちがえやすい部首

一 (しんにょう・しんにゆう) …… 一 (三画)

又 (えんにょう) …… 又 (三画)

弓 (おおざと) …… 弓 (三画)

糸 (いとへん) …… 糸 (六画)

(2) 画数をまちがえやすい漢字

〈三画〉子・女

〈四画〉氏・予・区

〈五画〉号・世・氷・以

〈六画〉印・毎・考・色

〈七画〉改・弟・身・何

〈八画〉泳・所・画・表・波

〈九画〉昼・級・追・度・発

〈十画〉記・紙・席・庭・旅

〈十一画〉鳥・球・商・進・部

〈十二画〉階・港・集・陽

漢字を写す。

良	養	察	機	観	案	要	城
良 7	食 15	ハ 14	木 16	見 18	木 10	西 9	土 9
リョウ ヨイ*	ヨウ ヤシナウ	サツ	キ ハタ*	カン	アン	ヨウ イロ カナメ*	ジヨウ シロ ギギ*
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
リョウシンがどがめる。	キュウヨウする。	こん虫をカンサツする。	ヒコウキに乗る。	カンコウバスに乗る。	町をアンナイする。	ヨウテンをつかむ。	おシロを見学する。

漢字を使ったことば遊びだよ。○の漢字を組み合わせてできる漢字を□に書き入れよう。ちよっと形をかえて使うものもあるので注意してね。これができたら、習った漢字をぶんかいて自分で短文を作ってみるのもおもしろいよ。

① まい日、お寺のかねで□を知る。

② 里に住む王さまは、□科が好き。

③ 田んぼで見つけた系は□い。

④ いなかの田んぼを心の中で□う。

⑤ 人が木の下で□む。

⑥ 女の人が台の上で演説を□める。

⑦ 白い糸で水に□を引く。

⑧ 歌を口ずさむように鳥が□く。

⑨ 家の主人が木の□をみかく。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんの家では、どのような材質のなべを使っていますか？ たぶん、アルミニウムのもものが、もっとも多く使われているのではないのでしょうか。そのほか、ステンレス、耐熱ガラス、銅、それに鉄なべも使っているかもしれませんね。

いまからほんの三、四十年ほどまえまでは「なべ」というと、ほとんどが鉄のもの（鉄をとかして型に流しこんでつくったもの）のなべをさしました。その鉄のなべが、日本全国に使われたのは、江戸時代よりあとのことです。

日本ではじめて鉄が使われたのは、ずっと古い時代のことですが、もともと日本には、鉄鉱石は多くありません。それで、江戸時代以前には、とぼしい鉄を、おもに、くわやかま、なたなどの農具と、刀、槍などの武器を作るのに使っていました。そして、ふだんの食事を作るのに使うなべやかまには、素焼きの土器が長いあいだ使われてきたのです。

日本人は、いまから二千年ほどまえの弥生時代には、すでに平野で水田を作り、イネを栽培して、米を食べていました。それに、それ以前にも、山や野原に火をつけて、その焼けあとにアワやヒエを作る、いわゆる焼畑農業もしていました。このようなむかしから、日本人は、ヒエやアワ、米などを食べてきたのです。

ところで、これらの穀物は、おもにつぶのまま食べて食べるものです。このことは、おなじ穀物でも、粉にひいてパンに焼く麦や、アフリカなどでみられる粉がゆになるミレット（雑穀）とは大きくちがいます。そして、世界全体でみたとき、たいてい方法は、日本をふくむ東アジア地域だけのものです。これは、アワ、ヒエ、米には、てきとうなねばりけがあり、粉にひいてパサパサに分解するよりも、つぶでたいて食べるのが、いちばんおいしい調理法だったからです。

にたきをするには、何よりもなべ・かまが必要で、縄文式土器も弥生式土器も、おもに、にたきをするために生まれたと考えられます。にたきといっても、縄文時代の食べものは、おもに木の実や貝、魚、けもの肉などでした。米をにたわけではありません。とくに、その時代の人間にとっては、収穫量が不安定な狩りよりも、専門的な技術や道具を用いなくても、季節ごとにあるていどの収穫が見こめる、貝や木の実の採集のほうがたいせつだったのです。貝は、シジミやアサリなどの二枚貝が、木の実では、シイやカシの実のようなドングリ類がよく食べられていたようです。

ドングリはそのままではアワが強く、しぶくて食べられたものではありません。⑤ それにはいろいろな方法がありますが、かんたんには、なべでにればいいのです。また、貝もなべでにれば、貝がらが自然にひらいて、かんたんに食べることができます。

このように日本では、米をたいて食べはじめる以前の縄文時代から「にる（たく）」という調理法と、そのための土器が生まれてきたことがわかります。そして、アワや米などの穀物の栽培が進んでくると、ますます「にる」調理法がさかんにになり、さらに「むす」調理法も生まれました。日本人ほど、なべやかまを必要とする民族はほかにはないように思います。

（神崎宣武『やきもののはなし』）

- * 1 耐熱・高温の熱を受けても、形や質が変わらないこと。
* 2 鉄鉱石・鉄をふくんでいる石。

- * 3 アワやヒエ・アワもヒエもイネのなかま。
* 4 穀物・人が主食とするイネ・麦・アワ・豆などの作物。
* 5 収穫量・とり入れた農作物の量。
* 6 アワ・植物にふくまれていて、しぶみ。

問一 線①「みなさんの家では、どのような材質のなべを使っていますか？」とありますが、筆者はその答えの予想として、何種類の材質のなべを挙げていますか。漢数字で答えなさい。

問二 線②「鉄のなべが、日本全国に使われたのは、江戸時代よりあとのことです」とありますが、それまでは食事を作るのに何が使われていましたか。文中から六字で書きぬきなさい。

問三 線③「もともと日本には、鉄鉱石は多くありません」とありますが、江戸時代以前には鉄は何を作るのに使われていましたか。文中のことばを使って五字で書きぬきなさい。

問四 線④「これらの穀物は、おもにつぶのまま食べて食べるのです」ということばについて、次の(1)～(3)に答えなさい。
(1) 「これら」が指している内ようを文中から九字で書きぬきなさい。

Blank grid for question 4(1) answer.

(2) (1)の穀物を「つぶのまま食べて食べる」のは、どこの人々ですか。「……の人々。」につながる形で文中から十二字で書きぬきなさい。

Blank grid for question 4(2) answer.

(3) (1)の穀物を「つぶのまま食べて食べる」のはなぜですか。その理由が書かれている一文を文中からさがし、そのはじめの五字を書きぬきなさい。

Blank grid for question 4(3) answer.

問五 工から選び、記号で答えなさい。
ア そこで イ そのうえ
ウ あるいは エ ところが

問六 線⑤「それ」が指している内ようを「……方法。」につながる形で文中のことばを使って書きぬきなさい。

問七

線⑥「このように日本では……わかります」とありますが、縄文時代の日本では、土器で何をにっていたのですか。次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

Blank boxes for question 7 answer.

1 次の漢字の部首の名前とその部首の画数を答えなさい。
(例) 港 (さんずい) (3)

- (1) 集 _____
- (2) 筆 _____
- (3) 登 _____
- (4) 雪 _____
- (5) 顔 _____
- (6) 道 _____

2 次の漢字の総画数を答えなさい。

- (1) 医 _____
- (2) 門 _____
- (3) 号 _____
- (4) 終 _____
- (5) 弱 _____
- (6) 都 _____
- (7) 始 _____
- (8) 波 _____
- (9) 何 _____
- (10) 歌 _____
- (11) 新 _____
- (12) 所 _____

第7回

物語文2

五月の道しるべ (1)



ねらい

◆場面をとらえる

物語では、主人公をはじめとするさまざまな人物が登場し、いろいろなできごとが起こりながら話が進んでいきます。それらの一つ一つのまとまりを「場面」といいます。

場面のとらえ方

場面をとらえるときには、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」の四つに着目します。

- (1) いつ
時代・季節・時刻など、時を表す表現に注意しましょう。
- (2) どこで
場所を表す表現に注意しましょう。
- (3) だれが
その場面に登場している人物をおさえましょう。
- (4) どうした
登場人物の行動をおさえましょう。

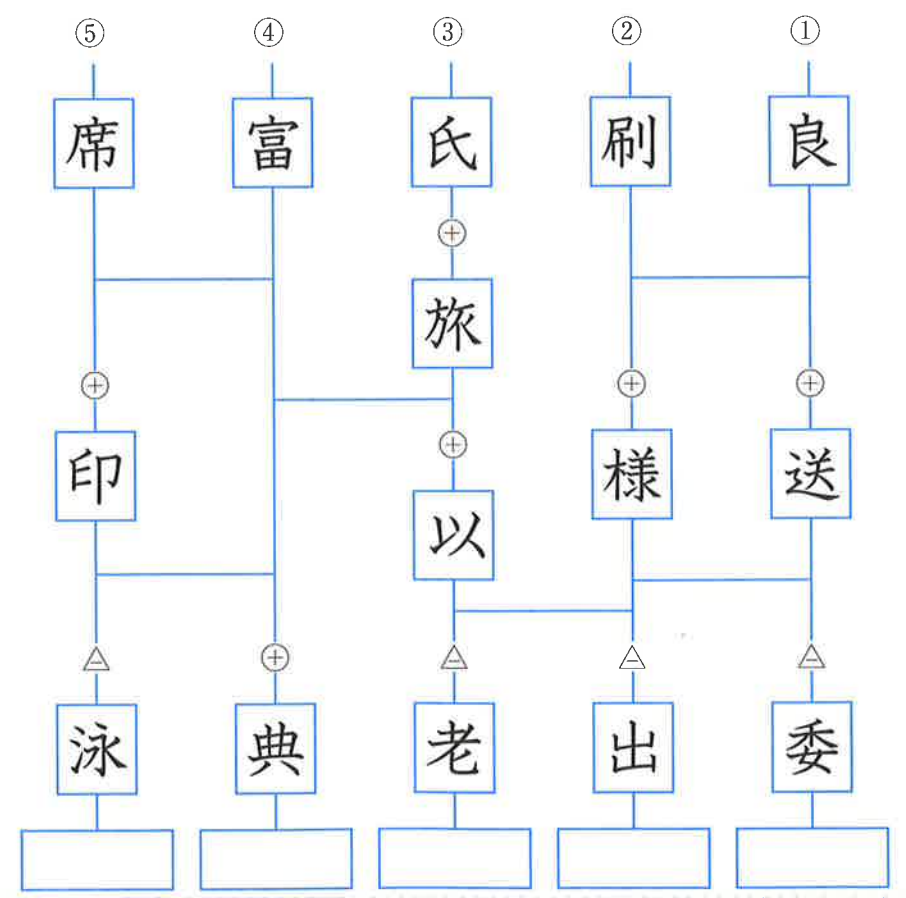
これらは、文章中で直接説明されず、登場人物の行動や会話などからわかる場合もあるので、さまざまな点に注意を向けながら、想像力をはたらかせて場面の様子を思いえがくようにしましょう。



漢字を書こう。

功	栄	便	博	成	固	挙	完
カ	木	イ	十	戈	口	手	宀
5	9	9	12	6	8	10	7
ク	エイ はえかえる はえ*	ベン たより	ハク バク*	セイ なる なる ヨウ ウ*	カ かた カ かた タ ため まる	キョ あがる	カン
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
実けんがセイコウする。	町がサカえる。	島へテイキビンが出る。	かれはハクガクだ。	セイジンの日。	しっかりとコテイする。	例をあげる。	カンゼンにでき上がる。

漢字の総画数を使った計算あみだくじだよ。漢字の総画数をたしたりひいたりして出た数を□に書こう。いちばん大きな数は何番から出発したものかな。いちばん大きな数



ことば・ことば・言葉

1 次の漢字は、漢和辞典の音訓さくいんではどんな順にならんでいますか。早く出てくる順に、記号で答えなさい。

- (1) 三字とも
音読みで
調べる場合
- ア 配
イ 遊
ウ 乗
- (2) 三字とも
訓読みで
調べる場合
- ア 伝
イ 流
ウ 残



2 次の漢字を漢和辞典の部首さくいんを使って調べようと思います。どの部首の何画を引けばよいかを書きなさい。

(例) 花 (ハ) (4)

- | | |
|-------|-------|
| (1) 秋 | (2) 部 |
| (3) 放 | (4) 悪 |
| (5) 国 | (6) 原 |
| (7) 泳 | (8) 送 |
| (1) 身 | (2) 記 |
| (4) 級 | (5) 低 |
| (3) 海 | (6) 世 |

3 次の漢字を漢和辞典の総画さくいんを使って調べようと思います。それぞれの漢字の総画数を書きなさい。

まとめのふくくふう

タイムテスト

(1)

月 日 得点

100点

1 次の線部の漢字の読み方を書きなさい。(各2点)

- (1) 便利な道具。
- (2) 選挙に行く。
- (3) 子を養う。
- (4) 栄光への道。
- (5) 日本で最も高い山。
- (6) 勇ましい行進曲。
- (7) 花の種をまく。
- (8) 版画を刷る。

2 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。(各2点)

- (1) ビルがカンセイする。
- (2) 意見をモトめる。
- (3) 三月のスエに旅行に行く。
- (4) 水がヒクい方に流れる。
- (5) 図書館で本をカリる。
- (6) 正しくツタえる。

3 次の(1)~(10)の漢字は、あとのア~エのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。(各1点)

- (1) 門 (2) 七 (3) 校 (4) 森 (5) 目
- (6) 板 (7) 岩 (8) 鳥 (9) 中 (10) 姉
- ア 象形文字……ものの形をかたどったもの。
- イ 指事文字……形のないものを、点や線で表したのもの。
- ウ 会意文字……いくつかの文字を組み合わせて、新しい意味を表したもの。
- エ 形声文字……読みを表す部分と意味を表す部分とを組み合わせて、一つの漢字としたもの。

4 次の(1)~(10)の漢字の部首の名前をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。(各1点)

- (1) 固 (2) 都 (3) 近 (4) 英 (5) 隊
- (6) 然 (7) 約 (8) 原 (9) 念 (10) 歌
- ア あくび イ こざとへん ウ しんにょう
- エ れんが オ くにながまえ カ こころ

漢字の一部を入れかえて別の漢字にしてみよう。入れかえる部分は絵でしめされているよ。

(例) 畑 - + = 細

① 板 - + =

② 林 - + =

③ 注 - + =

④ 地 - + =

キ おおぎと
コ がんだれ
ク くさかんむり
ケ いとへん

5 次の漢字の筆順の正しいものを、それぞれ記号で答えなさい。

(1)	町	ウ	イ	ア	ウ	イ	ア	ウ	イ	ア
(2)	声	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ
(3)	発	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ

6 次の漢字の↓をつけた画は、何画目に書きますか。それぞれ答えなさい。

(1)	母	(2)	旅	(3)	引
(4)	生	(5)	皮	(6)	方
(1)	世	(2)	米	(3)	友

第10回

物語文3

夏子先生とゴイサギ・ボーイズ(1)



ねらい

◆気持ちを読み取る

- (1) 物語文を読むときには、登場人物の気持ちを読み取ることが大切です。
- (2) 気持ちを直接表す表現をとらえる。「うれしい」「悲しい」「さびしい」など、気持ちを直接表したことをとらえましょう。
- (3) 登場人物の会話に注目する。気持ちを直接言わなくても、人物のことばから、その気持ちがわかることがあります。会話の内ようをはじめ、口調にも注意しましょう。
- (4) 登場人物の行動や様子に注目する。会話だけでなく、行動や様子からも、人物の気持ちを読み取ることができます。

なお、登場人物の気持ちを考えるときは、自分がその人物になったつもりで気持ちを考えてみましょう。

- ・自分だったらそんなとき、どんな気持ちになるだろう。
- ・こんなことを言われたら、どんな気持ちがするだろう。
- ・自分はどんな気持ちのときにこんなことを言うだろう。

8 次のことばは、国語辞典ではどんな順に出ていますか。早く出てくる順に番号を書き入れなさい。

(1)	強風	(2)	花びら
(1)	兄弟	(2)	パイナップル
(1)	級友	(2)	場所
(1)	教科	(2)	ハーモニカ
(1)	球場	(2)	配列

9 次の文の線部のことばを、国語辞典に出ている言い切りの形に直して書きなさい。

- (1) ねこが高い木によじ登った。
- (2) 泣いている弟をなだめて遊んでやった。
- (3) 友だちをわっとおどろかした。
- (4) かるがるしく同意するのはやめよう。
- (5) しめ切ったドアを開ける。
- (6) 母はいつもいそがしそうだ。
- (7) 悲しければ泣くがいい。

漢字を書こう。

覚	見 12	カク	おぼえる	さます	さめる	(1)	ジカクを持つ。
欠	欠 4	ケツ	かける	かく	か	(2)	ケツテンをあげる。
信	イ 9	シン				(3)	友だちをシンヨウする。
単	ツ 9	タン				(4)	タンチョウな海岸線。
灯	火 6	トウ	ひ*			(5)	みさきのトウダイ。
必	心 5	ヒツ	かならず			(6)	ヒツヨウな品物。
愛	心 13	アイ	え*			(7)	音楽をアイする。
果	木 8	カ	ははたす	ははてる		(8)	練習のセイカがでる。



口はいろいろ変わる...

「口」という漢字にあと二画付け足すと、どんな漢字ができるかな？ 「口」がたてに長くなったり、横に長くなったりしてもかまわないよ。1〜5の漢字を書こう。



(例) 音読みは「モク」。顔に二つあるものだよ。 答え(目)

1 音読みは「デン」。わたしたちが毎日のように食べる、お米が作られる所だね。

2 音読みは「キョウ」。「わたしには三才年上の〇がいます。」などという使い方をするね。

3 音読みは「コ」。どんなに新しいものも、時間がたてばどうなるかな。

4 音読みは「ウ」。人は道路のどっち側を歩くのかな。

5 音読みは「シ」。パーティーなどを進める役目の人を「〇会者」というよね。

第11回

物語文3

夏子先生とゴイサギ・ボーイズ(2)



ことば・コトバ・言葉

◆文の組み立て

文の基本の型は、次の四つがあります。

(1) 何が(は) どうする。

(例) ・花が さく。
・雨が ふる。

(2) 何が(は) どんなんだ。

(例) ・風が 強い。
・世界は 広い。

(3) 何が(は) 何だ。

(例) ・これは チューリップだ。
・ぼくは 四年生だ。

(4) 何が(は) ある(いる/ない)。

(例) ・りんごが ある。
・犬が いる。
・本が ない。

※文が長くなっても、その多くが基本の四つの型のどれかにあたります。

(例) ・クラスのみんなが大声で笑う。 ↓何が(は) どうする。
・先生の話は、とてもおもしろい。 ↓何が(は) どんなんだ。
・ぼくの兄は、今年中学生だ。 ↓何が(は) 何だ。
・読みたい本がたくさんある。 ↓何が(は) ある(いる/ない)。

漢字を書こう。

康	健	協	害	望	特	栃	希
广 11	イ 11	十 8	宀 10	月 11	牛 10	木 9	巾 7
コウ	ケン すこやか*	キョウ	ガイ	ボウ モウ* のぞむ	トク	とち	キ

(1) キシヨウな宝石。

(2) トチギ県の観光地。

(3) トツキユウ電車に乗る。

(4) 幸せをノゾむ。

(5) コウガイをふせぐ。

(6) キョウリヨクする。

(7) ケンゼンな精神。

(8) ケンコウな体を作る。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
夏休み。ゴイサギ森から、子どもたちの声がきこえた。
「そら、正広。えだをなわでしるんだ。」

正広は、木の上の健のさしずにしたがう。
えだのあいだからたらされたなわに、板がむすびつけられ、木の上に引きあげられる。木の下には正広とし子、上にはほかの三人。
えだとえだのあいだに板がしきつめられ、三人ぐらいならすわることのできる、ゴイサギの巣が二つ、つくられているのだった。
この板を提供したのは正広だ。夏子先生がお宮の森のゴイサギたちを見て、正広のことを相談してくれていると思って、むねがきゅつとなったとき、この連中が相談していたのは、じつはこの巣をつくる板をどこから手に入れるかということだった。
「そらだ。正広くと遊んでやって、そのかわり、板をもらえばいいわ。」

「うん、それはいい考えだ。」
③ こういうことから、正広と遊ぶということがはじまったのだが、大げさに夏子先生に報告して、「友情に感謝する」などといわれたので、巣をつくったら、正広をおはらいばこにするというわけにはいかない。
「まあ、いいや。あいつ、ぐずだけど、毎日、おかし持ってきてくれるもんな。」
巣の上にねそべった健は、えだにつるした箱から、おかしを取って食べる。健は水泳パンツ一まいのはだかだ。えだの上から川にとびこめるのが、この巣のよいところだ。
⑤ 「正広くん、もっとこっちにきてみるよ。」

川のなかで、ひろしと京平が水をはねあげながらいう。岸に近い浅いところに正広はうきわをつけてはいつているが、深いほうへはいこうとしない。
とつぜん、水のなかからとし子が正広のそばにうかびあがって、うきわをぐいぐい引っぱった。
「あ、あ、あ。」

正広は、むちゅうで水をかく。ひろしと京平が近づいて、一人は正広の頭をおさえつけ、一人はもぐって足を引っぱる。うきわはとし子に取られ、正広はうかびあがったり、しずんだりする。
毎日、こんなことをしているうちに、ゴイサギたちもしだいに正広が好きになってきた。

⑥ 「これをやるよ。忍者の目つぶしだよ。きみをいじめるやつがいたら、ぼくたちがおっぱらってやるけども、一人のときには、これをぶつけてやったらいいよ。」

健は、タマゴのからのなかに、灰やトウガラシをつめこんだ目つぶしを、正広にやったりした。

(古田足日『夏子先生とゴイサギ・ボーイズ』)
*1 提供し利用してもらうために、お金や物・技術などをさし出してあたえること。

問一 線①「ゴイサギ森から、子どもたちの声がきこえた」とありますが、ゴイサギ森に子どもたちは何人いるのですか。漢数字で答えなさい。
[] 人

問二 線②「えだをなわでしるんだ」とありますが、いったい何をつくらうとしているのですか。次の[]にあてはまることを文中からそれぞれ書きぬきなさい。
・三人ぐらいなら [] ことができる、えだとえだのあいだに [] をしきつめた、 []

[]
[] というもの。

問三 線③「こういうことから、正広と遊ぶということがはじまった」とありますが、どんなことから正広と遊ぶことになったのですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 遊んでやるかわりに毎日おかしをもらおうと考えたこと。
- イ 夏子先生から遊んでやるようにたのまれたこと。
- ウ 遊んでやるかわりに巣をつくる板をもらおうと考えたこと。
- エ 巣をつくる手伝いをしたいという正広の申し出を受けたこと。

問四 線④「正広をおはらいばこにする」とは、どうすることですか。もっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 正広にはもう巣をつくらせないようにすること。
- イ 正広からはもう板をもらわないようにすること。
- ウ 正広をもう仲間はずれにはしないようにすること。
- エ 正広とはもう遊ばないようにすること。

問五 線⑤「正広くん、もっとこっちにきてみるよ」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

- (1) このとき正広はどんな様子でしたか。次の[]にあてはまることを文中からそれぞれ書きぬきなさい。
・川の、岸に近い [] に [] をつけてはいつていた。

[]
[]

問六 [] にあてはまることばとしてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 笑いそうになって [] 泣きそうになって []
- ウ おこりそうになって [] 得意そうになって []

問七 線⑥「これをやるよ……ぶつけてやったらいいよ」とありますが、ここからわかる正広に対する健の気持ちを説明したものととしてもっともよいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 正広のいくじのなさにあきれ、かわいそうに思っている。
- イ 正広を自分たちの仲間だとみとめている。
- ウ 正広をからかってこまらせようとたくらんでいる。
- エ 正広をもっと強くしてやろうとはりきっている。

ことば・コトバ・言葉

1 次の文の型は、あとのどれにあたりますか。記号で答えなさい。

- (1) 犬がほえる。
- (2) 父は会社員だ。
- (3) 空が青い。
- (4) ケーキがある。
- (5) となりの教室がとてにぎやかだ。
- (6) かれはクラス対こうりレーの選手だ。
- (7) 妹は、おこられるとすぐに泣く。
- (8) ぼくには、弟が二人いる。
- (9) ぼくは、おこづかいで本を買った。

- ア 何が(は) どうする。
- イ 何が(は) どんなだ。
- ウ 何が(は) 何だ。
- エ 何が(は) ある(いる/ない)。

第12回

物語文3

夏子先生とゴイサギ・ボーイズ(3)



ことば・コトバ・言葉

文を組み立てていることばには、主語・述語・修飾語などがあります。文の基本の型は四つありますが(47ページ参照)、それぞれの文がどの型になっているかは、主語と述語をとらえることではっきりします。

◆主語

「何が(は)」「だれが(は)」にあたることばを主語といいます。

(例) わたしは 図書館へ 行った。

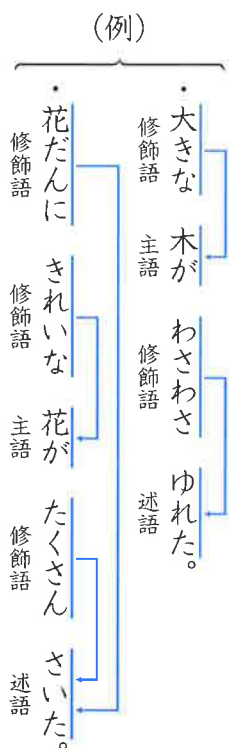
◆述語

「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある(いる/ない)」にあたることばを述語といいます。

(例) ウグイスが 美しい 声で 鳴いた。

◆修飾語

「いつ」「どこで」「どんな」など、主語や述語をくわしく説明することばを修飾語といいます。



漢字を書こう。

連	阜	照	岐	鏡	瀉	敗	失
連	阜	照	岐	鏡	瀉	敗	失
10	8	13	7	19	15	11	5
つづれ れらなる	フ	てでて れらる るす	ギキ *	かがみ キヨウ	かた	ハイ やぶれる	シツ うしなう
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
五月のレンキユウ。	ギフ県の地図。	太陽がテリつける。	父はギフ県の出身だ。	ボウエンキヨウで見る。	千ガタで遊ぶ。	ハイボクする。	シツレイなたいど。

「もの」と「様子」と「動き」を表すことばを、それぞれのグループの中から一つずつ選んでつなげ、文を四つ作ろう。

星	花	雨	水
ぎ	き	ぼ	は
あ	ら	た	ら
ざ	き	ぼ	は
あ	ら	た	ら
さ	光	落	散ち
く	る	ち	る
		る	る

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今日は、クラス対抗の水泳大会の日。あと一種目、五十メートル男子自由形で優勝クラスがきまる。

「だれか、出てくれないか。出さえすれば、ぶりでも、一点はもらえるんだ。六年二組が十点とっても、同点優勝だぞ。」

学級委員や、ゴイサギ・ボーイズは、まだ泳いでいない連中に話してまわった。

だが、五十メートル泳ぎきる自信のあるものは、だれもない。場内アナウンスはよぶ。

「五年三組の選手はまだですか。」

プールのとびこみ台には、九人の選手がずらりとならんだ。五年三組の第八コースだけが、ぼっかりあいている。

ドーン
スタートのピストルが鳴って、九人の選手は、いっせいに水中にとびこんだ。

「ごんねん、優勝をのがしたな。」
ゴイサギたちが顔を見あわせたとき、第八コースのとびこみ台に立つた子がいた。

①「あつ、太郎左衛門だ。」
みんなはおもわずさげこんだ。正広はプールのなかに、ドボンと落ちこんだ。自分では、とびこんだつもりだ。ほかの組の子どもたちは、とっとわらった。

「つぶれたカエルみたいだぞう。」
「カエルなら、泳げるけど、太郎左衛門はかなづちだ。」

そのとおり、ちよっと泳いだ正広は、ぶくぶくとしずんだ。
③「あ、あ、あ。」
夏子先生は、気が気でない。

「がんばれ、太郎左衛門。プールは浅いぞ。背が立つぞ！」
ゴイサギ・ボーイズは、声をそろえてどなった。

正広はプールのなかで立ちあがり、ひといきつくと、また泳ぎだした。「それでも選手かあ。うきわ、かしてやろうか。」

やじがとんで、ほかの組の子はまたわらう。だが、五年三組の子は、だれもわらわなかった。

④「がんばれ！ 太郎左衛門。がんばれ！ 太郎左衛門！」
四、五メートル泳いで、ひとやすみ。またひとやすみ。正広はいよかきで泳いだ。

ほかの選手は、もう二十五メートルのプールを往復して、岸に上がった。正広は、やっと、こちら岸についた。

「あがったら、ね、正広くん。」
夏子先生は正広を引っぱりあげようとした。

だが、正広は、くるしそくに大きないきをつぎながら、ターンした。広いプールを、たった一人。正広は、いきをきらし、しずみそうになりながら、やすみ、やすみ、泳いでいく。

⑤「がんばれ！ 太郎左衛門。がんばれ！ 太郎左衛門！」
もう、だれ一人、正広をわらう子はいなかった。

校長先生も、ほかの先生も、総立ちになり、全校生徒が正広をおうえんした。

「がんばれ！ 正広くん。がんばれ！ 正広くん。」
さげぶ夏子先生の目のなかで、泳ぐ正広のすがたがぼやけていく。

⑥ なみだが、あとから、わいてくるのだった。

(古田足日『夏子先生とゴイサギ・ボーイズ』)

問一

線①「あつ、太郎左衛門だ」とありますが、太郎左衛門(正広)は、なぜ五十メートル男子自由形に出ることにしたのだと考えられますか。次の□□にあてはまることを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

自分が出れば でも一点もらえるので、六年二組が

十点とっても、五年三組は になるから。

問二

線②「ほかの組の子どもたちは、とっとわらった」とありますが、正広のどんな様子を見てわらったのですか。次の□□にあてはまることを文中から書きぬきなさい。

プールのなかに

様子。

問三

線③「夏子先生は、気が気でない」とありますが、このときの夏子先生の気持ちを説明したものとして、もっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 正広もととわられるのではないかと心配している。

イ 正広が途中で泳ぎをやめるのではないかと心配している。

ウ 正広がおぼれるのではないかと心配している。

エ 正広がぶりになるのではないかと心配している。

問四

線④、⑤の「がんばれ！ 太郎左衛門」は、それぞれだれがおうえんしている声ですか。

④

⑤

問五

だれ一人、正広をわらう子はいなくなり、みんなが正広をおうえんするようになったのはなぜですか。もっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア ぶりでも最後まであきらめず、前の人に追いつこうと必死に泳ぐ正広のすがたに感動したから。

イ つかれてしずみそうになりながらも、少しもやすむことなく最後まで泳ぎ続ける正広のすがたに感動したから。

ウ かなづちだった正広が、五十メートルをみごとに泳ぐすがたに感動したから。

エ うまく泳げなくても、ひどくつらくても、最後まで泳ぎぬこうとする正広のすがたに感動したから。

問六

線⑥「なみだが、あとから、わいてくる」とありますが、このときの夏子先生のなみだは、どんな気持ちから出たのですか。もっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 悲しみ イ 安心
ウ 心配 エ 喜び

ことば・コトバ・言葉

1 次の各文の主語と述語と修飾語を書きなさい。
(1) 月がとてもきれいだ。

主語

述語

修飾語

(2) ひよこがピヨピヨ鳴いた。

主語

述語

修飾語

(3) わたしの姉は、中学生だ。

主語

述語

修飾語

(4) おいしいね、このケーキは。

主語

述語

修飾語

2 次の各文の——線部のことばが修飾していることばを書きなさい。

(1) わたしは、新しいノートに名前を書いた。

(2) パトカーが駅前の交差点を左に曲がった。

(3) 弟は、川でアユを三びきつった。

(4) わたしは、エレベーターで八階に上がった。

(5) 今日、ぼくたちは学校のプールで泳いだ。

第13回

詩

桜の木の下で・素直な疑問符



ねらい

◆詩について

詩とは、心に強く感じたことを、その感じにぴったりしたことばを使って、リズムをもたせて表現したものです。

(1) 詩のとくちよう

① 行分け……作者の心のリズムで改行が行われます。

② 連……感動や内よりのまとまりによって何行かがひとかたまりになって、連を作ります。連が集まり、詩を構成します。連と連の間は、ふつう一行あけてあります。

(2) 詩の表現上のくふう

① たとえ……あるものの様子や感じをはっきりと伝えるために、別のものなたとえて表現します。

② ぎん法……人間でないものを人間のように表現します。

③ よびかけ……親しみをこめ、生き生きとした感じを生みます。

④ 省略法……ことばをはぶいて、印象を強めます。

(3) 詩の読み方・味わい方

① リズムを感じ取る。

② 情景をとらえる。

③ 作者の心情をとらえる。

④ 詩の主題をつかむ。

以上の点に注意しながら詩を読み、作者が何に感動しているのかを読み取り、その感動を自分でも味わえるようにしましょう。

漢字を書こう。

課

言 15

カ

(1) ホウカゴ校庭で遊ぶ。

械

木 11

カイ

(2) 農業がキカイカされる。

漁

イ 14

リヨウ

(3) キョギョウが栄える。

極

木 12

ゴク*
きわめる*

(4) ナンキョクへ行く。

梅

木 10

バイ

(5) ウメの実がじゆくす。

浴

イ 10

ヨク
あびる
あびせる

(6) カイスイヨクを楽しむ。

関

門 14

カン
かかわる
せき

(7) 親子のカンケイ。

児

儿 7

ジ
ご*

(8) ジドウブンガク。

『夏子先生とゴイサギ・ボーイズ』(52〜53ページ)で、正広(太郎左衛門)は水泳大会で、しずんだり足をついたりしながらも、五十メートルを泳ぎきります。あなたはこれまでに、がんばってやりぬいてよかったという経験がありますか。その経験について、「どんなことをやりぬいたのか」「なぜやりぬいたのか」がわかるように書きましょう。

Blank writing area with vertical lines for the student's response.

文章たんけん

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。
桜の木の下で 高木あきこ

風の日
満開の桜の木の下で
① 両手を枝みたくたいに すつくと上げると
たえまなく降りかかってくる花びら
ふりふり ふるふる ふれふれ
ふりふり ふるふる ふれふれ……

② 歌のように 呪文のように
ゆっくり口ずさんでいると

いつかわたし 桜色に染まって
声まできれいな響きになって
ふりふり ふるふる ふれふれ
ふりふり ふるふる ふれふれ……

年老いた古い桜の木
今年も こんなに
みごとに咲いてくれて ありがとう
桜ふぶきのやさしい時間を ありがとう

2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

素直な疑問符

吉野弘

① 小鳥は不思議そうに首をかしげた。

② わからないから

わからないと

素直にかしげた

あれは

③ 自然な、首のひねり

④ てらわれない美しい疑問符のかたち。

時に
風の如く
耳もとで鳴る
意味不明な訪れに
私もまた

⑤ 素直にかしぐ、小鳥の首でありたい。

*1 てらわれない 〓 気どってみせない。

*2 疑問符 〓 疑問を表す「？」の記号。クエスチョン・マーク。

*3 如く 〓 ……ように。

問一 線①「小鳥は不思議そうに首をかしげた」とありますが、このすがたを作者は何と表現していますか。詩の中から十五字で書きぬきなさい。

問一 線①「両手を枝みたくたいに すつくと上げると」とありますが、作者が桜と一体化したかのように感じている部分を詩の中からひと続きの二行で書きぬきなさい。

問二 線②「歌のように 呪文のように/ゆっくり口ずさんでいると」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) ローズさんでいることは詩の中から書きぬきなさい。

(2) (1)のことはについて説明したものとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 風が強くふく様子を表している。
- イ 桜が大きく枝を広げている様子を表している。
- ウ 自分の両手が桜の枝ににている様子を表している。
- エ 桜の花びらが降ってくる様子を表している。

問三 この詩の中心になっているのはどんな気持ちですか。もっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 桜ふぶきの美しさにおどろく気持ち。
- イ 桜がみごとに咲いたことを喜ぶ気持ち。
- ウ 桜の木が年老いたことを悲しむ気持ち。
- エ 桜の花が散ってしまうことを残念がる気持ち。

問二 線②「わからない」とありますが、何がわからないのですか。もっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の前に何があるのか。
- イ 何と声をかけられたのか。
- ウ 作者がだれであるのか。
- エ 作者が何をしているのか。

問三 線③「素直にかしぐ、小鳥の首でありたい」にこめられた作者の思いとして、もっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 知ったふうをよそおうことなく、正直でありたいという思い。
- イ いくつになっても人からかわいと言われたらいいという思い。
- ウ 他人の意見にまどわされず、自分を信じたという思い。
- エ 自分の耳に入るさまざまな音にびん感でありたいという思い。

問四 この詩についてのべたものとしてもっともよいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 小鳥のすがたを通して、作者の思いを表している。
- イ 同じことばをくり返し、速く力強いリズムを目立たせている。
- ウ ことばをばいいて、意味をあいまいにぼかしている。
- エ ことばの順序をふつうと入れかえて、作者の迷いを強調している。



セリフが読めない!

まん画の上にジュースをこぼしちゃった。ぬけているセリフをお母さんのことばをヒントに考えよう。



お母さん

たぶん...
こうだと思うわ。
まく開け
しりごみ
思うつぼ
百人か
ぜんは急げ
道のり

まとめのふくしゅう

タイムテスト

(2)

月

日

得点

/100点

1 次の線部の漢字の読み方を書きなさい。

(各2点)

(1) 北極の海。

(8) 弟をツれていく。

(3) 電灯をつける。

(4) 照明をあてる。

3 文の基本の型には次の四つがあります。あとの(1)~(7)の文は、ア~エのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。(各2点)

(5) 信号が赤になる。

(6) 命に関わる大切なこと。

(7) 責任を果たす。

(8) 漁に出る。

(1) 兄はサッカーの選手だ。

(2) はげしい風もふきつけた。

2 次の線部のかたかなを漢字に直しなさい。(各2点)

(2) 漢字をオボえる。

(3) 梅の香りがただよ。

(4) この物語はとてもおもしろかった。

(3) カナラず来てください。

(4) シツパイは成功のもと。

(5) ひきだしの中にしまっておいた本がない。

(5) ガイチュウをたいじする。

(6) キボウを持つ。

(6) ぼくの好物は魚料理だ。

(7) 川の流れがゆるやかだ。

4 3 (1)~(7)の文の主語と述語をそれぞれ書きなさい。(完答4点×7)

(1)	主語	述語
(2)	主語	述語
(3)	主語	述語
(4)	主語	述語
(5)	主語	述語
(6)	主語	述語
(7)	主語	述語

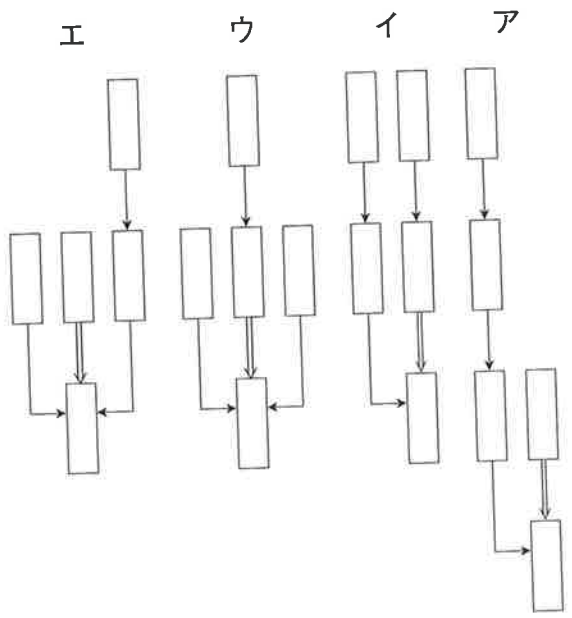
5 主語や述語をくわしく説明することは修飾語といひます。次の文の修飾語をそれぞれ書きなさい。またのことばをくわしく説明しているのか、修飾していることばの右に||線を引きなさい。(各3点)

- (1) バラがみごとにさいた。
- (2) あまいケーキがおやつだ。
- (3) 落ち葉がひらひらと散る。
- (4) テレビゲームはとてもおもしろい。

(5) 君は早く行きなさい。
(6) 転がったよ、大きな石が。

6 次の各文の文の組み立てを明示したものとしてもっともよいものをおとから選び、それぞれ記号で答えなさい。(↓は主語・述語の関係、→は修飾の関係をしめします。)(各2点)

- (1) 家の縁側でねこが気持ちよさそうにねむる。
- (2) ぼくはとても楽しいゆめをみた。
- (3) 真っ赤な夕日が西の空をそめた。
- (4) 白い雲がぼっかりと空にうかぶ。



第14回

説明文②

キタキツネの原野をいく(1)



ねらい

◆事実と意見を読み分ける

説明文を読むときは、事実や具体例と、筆者の考えや意見・感想を読み分け、どんな事実や具体例をもとに、筆者がどんな考えをのべているかをとらえることが大切です。

(1) 事実をのべた文

筆者が考えをもつきっかけとなったことや、考えの根きよ、説明するための具体例などをのべています。
「だ」「です」など、はっきりのべたり、「……だそうだ」「……ということだ」など、人から聞いた話としてのべたりします。

(2) 意見をのべた文

「思う」「考える」など、自分の考えであることをしめしてのべるほかに、「……のだろうか」など、疑問を投げかける表現や「……といえそうだ」「たぶん……だろう」「……かもしれない」など、判断をふくんだ表現のものがあります。

事実をのべた文なのか、意見をのべた文なのか、文末の形だけでは区別ができないこともあるので、内ようもしっかりとかくにんすることが必要です。

漢字を書こう。

唱	口 11	シヨウ となえる
臣	臣 7	ジン シン
静	青 14	セイ・ジヨウ しじしす ずすまか るる
浅	シ 9	セン* あさい
菜	ナ 11	サイ な
試	言 13	シ こころみる ためす*
達	ト 12	タツ
置	四 13	チ おく

- (1) ガッシヨウコンクール。
- (2) ダイジンに会う。
- (3) 物体がセイシする。
- (4) アさい川をわたる。
- (5) 畑でヤサイを作る。
- (6) テニスのシアイをする。
- (7) 医学のハツタツ。
- (8) つくえの上に本をおく。

- P 5
- (6) (1) 矢印 (2) 英語 (3) 残金 (4) 出席 (5) 飛行場
 始末 (7) 訓練 (8) 木材

〔文章たんけん〕

- P 6
- 1 問一 テッチャン 問二 ウ 問三 ぼくはぞっとした。
 問四 死んでしまったんですよ 問五 つえ・トイレ
 問六 ア 問七 ふうさん・守ろう

解説

問一 登場人物は、おじいさん(長谷川さん)、黒井さん、ぼく、テッチャンの四人。テッチャンが「しおれた葉っぱみたいに頭をたれた」ことから、テッチャンが何か悪いことをしたのだとわかる。
 問二 黒井さんがいい人だということになっとくできない気持ちを、二人でたしかめ合っているのである。
 問三 「ぞっとする」とは、おそろしきで体がふるえる様子を表す。
 問四 ふうさんについての、本当のことを言おうとしている。
 問五 おじいさんが「トイレにつれて行ってほしいと、かた手を差し出した」ので、黒井さんが手伝っていたのである。
 問六 黒井さんに対する気持ちが、身に付けているものにもまで感じられている。
 問七 おじいさんの様子でテッチャンの気持ちをしっかりとらえる。

P 8

- 1 (い)も(お)も(い) 2 (い)すや(す)い
 3 い(る)か(は)かるい 4 (か)し(た)べ(た)たしか
 5 ぞ(う)く(さ)く(う)ぞ

3 おじいちゃんのごストフレンド(3)

- P 13
- (6) (1) 未来 (2) 老人 (3) 群 (4) 最大 (5) 初心
 伝言板 (7) 奈 (8) 農夫

〔文章たんけん〕

- P 14
- 1 問一 おじいさんの病気がよくなったということ。
 問二 じゅうぶん元気をもらった 問三 A エ B ア
 問四 昔のこと・まぼろし 問五 ただその()たんだけだ。
 問六 (1) ちゃんと今を生きて、目の前にあるものを見ること。
 (2) 楽しい思い出の中にあること。
 問七 エ

解説

問一 おじいさんの言ったことを指している。
 問二 「生きる力」|| 「元氣」というつながりをとらえる。
 問三 Aは、聞きにくいことを聞く様子を表している。Bは、「ふうせんはだめ」という黒井さんの言い方表している。
 問四 ふうさんをだめという理由を説明するのに、「昔のことばかりを大事にするのはよくない」、「まぼろしなんかに気を取られてちゃ、もったいない」と言っていることからとらえられる。
 問五 第一回の文章では、黒井さんのエプロンのちようちよがちっともかわいくないと思えていたが「なんだかきれいに見えてきた」のである。これは「ぼく」の黒井さんに対する気持ちが変わったからである。
 問六 黒井さんの考えは「長谷川さんには……ほしい」と言っているところからわかる。テッチャンのお母さんの考えは「テッチャンのお母さんがいうように……」のあとに書かれている。

- P 9
- (6) (1) 印刷 (2) 順調 (3) 選出 (4) 料理 (5) 井戸
 自然 (7) 目標 (8) 富

〔文章たんけん〕

- P 10
- 1 問一 エ 問二 ガチャポンで当てたチャちな方位計。
 問三 イ 問四 おじいさんの病気がなおること。
 問五 坂道をころがるように 問六 鉄塔・真ん中
 問七 だれに聞かせたってまともじゃない話だから。 問八 ア

解説

問一 テッチャンは「ぼく」が協力してくれるかどうか不安だったので、「すがるような目」で見たのである。
 問二 鉄塔のまわりを回って「ほら、まちがないよ」と、鉄塔の四つへのんが東西南北をさしていることをかくにんさせている。
 問四 あとでテッチャンがおじいさんに「おじいちゃんの病気をなおしたいんだ」と言っていることからわかる。
 問七 めいしんのような話なので、ちゃんと説明できないのである。

P 12

- 〔ことば・コトバ・言葉〕
 1 (1) 山(と)石 (2) 火(と)田
 2 (1) 由・シ (2) 反・木
 3 〈象形文字〉魚・日 〈指事文字〉三・下
 〈会意文字〉明・鳴 〈形声文字〉味・時
 ① 昔 ② 湖 ③ 係 ④ 根 ⑤ 紙 ⑥ 悪
 ⑦ 持 ⑧ 買

P 16

- 〔ことば・コトバ・言葉〕
 1 (1) かんむり (2) あし (3) かまえ (4) つくり
 (5) しよう (6) たれ
 2 (1) カ (2) エ (3) ウ (4) ク (5) キ (6) オ
 (7) ア

- 3 (1) へいとへん ① 紙・級 (2) はつがしら ② 発・登
 (3) おおが い ③ 顔・頭 (4) さんずい ④ 決・油

問

問一 (1) ① へいとへん ② 紙・級 (3) おおが い ④ さんずい ⑤ 決・油
 (2) ① へいとへん ② 紙・級 (3) おおが い ④ さんずい ⑤ 決・油
 (3) ① へいとへん ② 紙・級 (3) おおが い ④ さんずい ⑤ 決・油

解説

問一 けんたくんが「あぶない」と声を出したにもかかわらず、男の人は気がついていない様子だったことをおさえよう。

4 やきものはなし (1)

- P 17
- (1) 氏名 (2) 辞書 (3) 古典 (4) 梨 (5) 記念
 (6) 予約 (7) 以下 (8) 種目

文章たんけん P 18

- 1 問一 土のねんど 問二 A ウ B エ 問三 イ
 問四 (1) 水をくわ(く)まる性質
 (2) 土間・レンガ・食器 (別解) 土器
 問五 地震がなく、しかも雨の少ない地方
 問六 ねんどでレンガのかたちを作ったもの。
 問七 〈長所〉だれにでもかんたんに作れる。
 〈短所〉こわれやすく水がもれやすい。
 問八 ウ

解説
 問四 (2) 19行目の「たとえば」(例をしめすときに使うつなぎことば)として、次の段落にある付け足すはたらきをする「また」という、二つのつなぎことばに着目する。

問八 日干しレンガは、「水につけるとすきまに水がはいり、もとのねんどのつぶにとけてしまいます」とあるので、ウが文章の内ようと合わない。

音研 P 20

- 研→起→祭→運→暗→駅→ゴール
 解説
 「研」の9画から始まり、「起」10画、「祭」11画、「運」12画、「暗」13画、「駅」14画となっている。

5 やきものはなし (2)

- P 21
- (1) 説明 (2) 方法 (3) 分類 (4) 苦勞 (5) 茨
 (6) 福岡 (7) 改正 (8) 埼玉

文章たんけん P 22

- 1 問一 風のぐあい・やね 問二 弥生式土器が焼かれた窯。
 問三 (1) イ (2) 生活の実用品
 問四 (1) 茶や豆、ゴマなどをいるとき。・もちや魚を焼くとき。
 (2) われやすくあつかいにくいせい
 問五 ④ カ ⑤ ウ 問六 プラスチック・アルミニウム・鉄
 問三 (2) 24〜25行目に「どの製品も……生活の実用品でした」と、「ここでつくられた素焼き製品」に共通していることが書かれている。
 問四 茶いらかし(ホーロク)の形や使い道を説明している部分に着目する。「また」というつなぎことばにも注意しよう。

解説
 問三 (2) 24〜25行目に「どの製品も……生活の実用品でした」と、「ここでつくられた素焼き製品」に共通していることが書かれている。

音研 P 24

- 「ことば・コトバ・言葉」
 1 (1) ア (2) イ (3) イ (4) ア (5) イ (6) ア
 2 (1) (7) イ (8) ア
 (2) (7) 3 3 (8) 1 5 2 (9) 3 2 (4) 4 (5) 7 (6) 8
 3 ウ・カ・キ
 ① 時 ② 理 ③ 細 ④ 思 ⑤ 休 ⑥ 始
 ⑦ 線 ⑧ 鳴 ⑨ 柱

6 やきものはなし (3)

- P 25
- (1) 城 (2) 要点 (3) 案内 (4) 観光 (5) 飛行機
 (6) 観察 (7) 休養 (8) 良心

文章たんけん P 26

- 1 問一 五(種類) 問二 素焼きの土器 問三 農具と武器
 問四 (1) ヒエやアワ、米など
 (2) 日本をふくむ東アジア地域(の人々)。
 (3) これは、ア
 問五 ア 問六 ドングリのアクをぬく(方法)。
 問七 ドングリ・貝

解説
 問二 直後の段落に、江戸時代以前には鉄が何に使われていたのか、また、食事を作るのに何が使われていたのかが書かれている。
 問三 「くわやかま、なたなどの農具と、刀、槍などの武器」の部分を五字でまとめる。

ことば・コトバ・言葉 P 28

- 1 (1) ふるとり・8 (2) たけかんむり・6
 (3) はつがしら・5 (4) あめかんむり・8
 (5) おおがい・9 (6) しんによう (別解) しんにゆう)・3
 2 (7) 8 (8) 8 (9) 3 (10) 4 (11) 5 (12) 6
 (7) 8 (8) 8 (9) 7 (10) 14 (11) 13 (12) 8
 ④

解説 ①は13、②は11、③は6、④は26、⑤は10になる。

7 五月の道しるへ (1)

- P 29
- (1) 完全 (2) 拳 (3) 固定 (4) 成人 (5) 博学
 (6) 定期便 (7) 栄 (8) 成功

文章たんけん P 30

- 1 問一 つつじは(く)らない。 問二 エ
 問三 (1) オオムラサキ・アケボノ・キリシマ・ヒカゲツツジ
 (2) 道しるべは
 問四 午後の日(く)見えた。
 問五 物語の中の大好きな人達

解説
 問一 直前の「七歳も六歳も(「私」も弟も)そう考えた」の「そう」が指している部分が、つつじを取ってもだいじょうぶだと考えた理由にあたる。
 問二 直後の「証拠を残したなど思った……花をつんだことを怒るかもしれない」と内ようが合うものを選ぶ。
 問三 「のように」というたとえを表す表現に注意して、道しるべについて書かれた文をさがす。
 問四 情景とは周囲の景色や様子のこと。
 問五 「たとえばどんな人ですか」という設問なので、人を表すことばを文中からさがす。24〜25行目に「たとえば……人達」とある。

音研 P 32

- 1 もも 2 石 3 へび 4 月 5 はと
 6 ねこ 7 えび 8 ひょうたん 9 おに 10 雨

- P 33
- (6) 観戦 (1) 気候 (2) 借金 (3) 利用 (4) 記録 (5) 共有
 - (7) 部隊 (8) 低下

〔文章たんけん〕

- P 34
- 1 問一 夢中 問二 最初に音が 問三 ア
- 問四 ひどくおびえた顔 問五 自分の自転車をけられた
- 問六 急に冷たく
- 問七 ・もっそりとした不気味なかたまり
・私のぜんぜん知らない不吉でいやなもの

解説

問一 「手当りしたい」、「色は何でもかまわなかった」、「たくさん、たくさん数があるのだ」などから、「私」の様子をとらえる。

問二 直後に「いっけないんだ」と言おうとしたのだろう」とある。

問三 「私」が泣きながらなるので、進はどうしてよいのかわからないのである。そんな気持ち表れている表情を文中からさがす。

問四 情景は景色を表すだけでなく、登場人物の気持ちや人間関係、その場の様子をそれとなく表す場合もあることを覚えておこう。

P 36

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (1) イ→ウ→ア (2) ア→イ→ウ
- 2 (1) ウ→イ→ア (4) イ→ウ→ア
- 2 (1) 新しい (2) 打つ (3) しあげる (4) よい (5) 休む
- 3 (1) オ・キ (2) 打ち (3) しあげる (4) よい (5) 休む
- 4 (1) エ・ク・ス (2) くま (3) ア・コ

- P 37
- (6) 熱病 (1) 熱病 (2) 勇気 (3) 求人 (4) 参考書 (5) 司会
 - (7) 的中 (8) 水量 (9) 一輪車

〔文章たんけん〕

- P 38
- 1 問一 花の血 問二 自転車が()ったため 問三 ア
- 問四 エ 問五 丸めたセロテープとセメダインのかけら
- 問六 〈第二場面〉ドアのし 〈第三場面〉「ちよっ
- 〈第四場面〉急にはの

解説

問一 「湯船に浮かんだこまかい花びら」を表している表現をさがすと、9行目に「紅や朱や濃い桃色のかけら」とある。「このように」「このようにだ」という表現にも注意する。

問二 直後の段落に、「悪いのは自分である」「私」が気がつく前のことが書かれている。

問三 直前の「身の安全のため」は、自分が母に怒られないようにするためということ。

問四 登場人物やできごとに注意して、場面の分かれ目をとらえる。

P 40

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (1) ウ→ア→イ (2) ア→イ→ウ
- 2 (1) 糸・4 (2) 戸・8 (3) 女・4 (4) 心・7
- 3 (1) 口・5 (6) 厂・8 (7) シ・5 (8) 之・6
- 3 (1) 坂 (2) 休 (3) 柱 (4) 他

タイムテスト (1)

1	(1) べんり	(2) せんきよ	(3) やしな	(4) えいこう
2	(5) もっと	(6) いさ	(7) たね	(8) す
3	(1) 完成	(2) 求	(3) 末	(4) 低
4	(5) 伝	(6) 量	(7) 老	(8) 借
5	(1) ア	(2) イ	(3) エ	(4) ウ
6	(6) エ	(7) ウ	(8) ア	(9) イ
7	(1) オ	(2) キ	(3) ウ	(4) エ
8	(6) エ	(7) キ	(8) ウ	(9) エ
9	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
10	(6) ケ	(7) コ	(8) ク	(9) ケ
11	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
12	(6) ア	(7) コ	(8) カ	(9) ク
13	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
14	(6) キ	(7) ケ	(8) コ	(9) ケ
15	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
16	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ケ
17	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
18	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
19	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
20	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
21	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
22	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
23	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
24	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
25	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
26	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
27	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
28	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
29	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
30	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
31	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
32	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
33	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
34	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
35	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
36	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
37	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
38	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
39	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
40	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
41	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
42	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
43	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
44	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
45	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
46	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
47	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
48	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
49	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
50	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
51	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
52	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
53	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
54	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
55	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
56	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
57	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
58	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
59	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
60	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
61	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
62	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
63	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
64	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
65	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
66	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
67	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
68	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
69	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
70	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
71	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
72	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
73	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
74	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
75	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
76	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
77	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
78	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
79	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
80	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
81	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
82	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
83	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
84	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
85	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
86	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
87	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
88	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
89	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
90	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
91	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
92	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク
93	(1) エ	(2) キ	(3) ケ	(4) コ
94	(6) エ	(7) キ	(8) ケ	(9) コ
95	(1) オ	(2) キ	(3) コ	(4) ク
96	(6) オ	(7) キ	(8) コ	(9) ク
97	(1) イ	(2) ケ	(3) コ	(4) ク
98	(6) イ	(7) ケ	(8) コ	(9) ク
99	(1) ウ	(2) ア	(3) カ	(4) ク
100	(6) ウ	(7) ア	(8) カ	(9) ク

10 夏子先生とゴイサギ・ボーイズ (1)

- P 43
- (6) 自覚 (1) 自覚 (2) 欠点 (3) 信用 (4) 単調 (5) 灯台
 - (7) 必要 (8) 愛 (9) 成果

〔文章たんけん〕

- P 44
- 1 問一 あぶない・だめ 問二 ウ 問三 イ 問四 エ
- 問五 考えこみながら車を運転していた(様子)。
- 問六 友だち・考えて 問七 ア

解説

問一 直前の正広とおばあさんの会話からとらえる。

問二 おばあさんがあぶないことをさせまいとするので、だれも正広とは遊ばないのだと思った夏子先生は、正広を友だちといっしょに元気に遊ばせてやりたいと考えて、——線②のようにいったのである。

問三 ——線③の「きっぱりことわった」と、直前のおばあさんのことば「あぶないことは、いっさいやらないように申しさせておきます」に着目する。おばあさんは正広にあぶないことは絶対にさせないと決めていることがわかる。

問四 「いつのまにか、車は……きていて」から、夏子先生が正広のことで考えこんでしまい、うわの空で運転していたことがわかる。

- P 46
- 1 田 2 兄 3 古 4 右 5 司

- P 47
- 1 (1) 希少 (2) 栃木 (3) 特急 (4) 望 (5) 公害
 (6) 協力 (7) 健全 (8) 健康

〔文章たんけん〕

1 問一 五(人) 問二 すわる・板・ゴイサギの巣

問三 ウ 問四 エ

問五 (1) 浅いところ・うきわ (2) 深いほう

問六 イ 問七 イ

解説

問一 ゴイサギ森で遊んでいるのは、正広と、ゴイサギ・ボーイズの健、とし子、ひろし、京平の、合わせて五人である。

問四 「おはらいばこにする」には、「不用品をすてる」という意味がある。ここでは、ゴイサギの巣が完成してしまえば、板をもらうために遊んでやっていた正広にはもう用がなくなるので、遊ばないようにすることである。

問六 「岸に近い浅いところに正広はうきわをつけてはいつているが、深いほうへはいこうとしない」から、正広が川の深いところをこわがっていることがわかる。

問七 正広に「忍者の目つぶし」をやったことと、「きみをいじめるやつがいたら、ぼくたちがおっぱらってやる」から、健の気持ちを考える。

P 50

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (1) ア (2) ウ (3) イ (4) エ (5) イ

- P 51
- (6) 照 (7) 岐阜 (8) 連休
 (1) 失礼 (2) 敗北 (3) 瀉 (4) 望遠鏡 (5) 岐阜

〔文章たんけん〕

1 問一 びり・同点優勝

問二 ドボンと落ちこんだ 問三 ウ

問四 ④ 五年三組の子

⑤ 全校生徒

問五 エ 問六 エ

解説

問一 1～2行目に「だれか、出てくれないか。出さずれば、びりでも、一点はもらえるんだ。六年二組が十点とつても、同点優勝だぞ」とある。これを聞いた正広は、クラスのためにびりを覚悟で五十メートル男子自由形に出ることにしたのだと考えられる。

問三 「気が気でない」とは、「ひどく心配で落ち着かない」という意味。ちよつと泳いだ正広が、「ぶくぶくとしずんだ」様子を見て、夏子先生は心配でたまらないのである。

問四 線④の直前に「ほかの組の子はまたわらう。だが、五年三組の子は、だれもわらわなかった」とある。線⑤のあとには「もう、だれ一人、正広をわらう子はいなかった。……全校生徒が正広をおうえんした」とある。

問五 「広いプールを、たった一人。正広は、いきをきらし、しずみそうになりながら、やすみ、やすみ、泳いでいく」という正広の様子から考える。

例

- (6) ウ (7) ア (8) エ (9) ア
 水がぼたぼた(と)落ちる。
 雨がざあざあ(と)ふる。
 花がはらはら(と)散る。
 星がきらきら(と)光る。

P 54

〔ことば・コトバ・言葉〕

- 1 (主語・述語・修飾語の順に) (1) 月が・きれいだ・とても
 (2) ひよこが・鳴いた・ピヨピヨ (3) 姉は・中学生だ・わたしの
 (4) ケーキは・おいしいね・この
 (5) ノートに (2) 交差点を (3) つった (4) 上がった
 泳いだ

例

わたしは三年生のとき、学校の昼休みに一輪車に乗る練習をしました。約一か月間練習した結果、足をつかずに長いきよりを乗れるようになりました。
 一輪車に乗る練習を続けたのは、友だち五人で「みんなで一輪車に乗れるようになろう」と約束したからです。なかなか乗れるようにならず、練習をやめたいと思ったこともありましたが、今では、とちゅうであきらめなくてよかったです。

